

#### (4) 予乾取り組み事例～中春別地区 A利用組合（3戸）～

半日程度の予乾を行い、安定した発酵品質を実現している事例を紹介します（図10）。過去3年間の粗飼料分析値では、発酵品質が良好に推移しています（表3）。

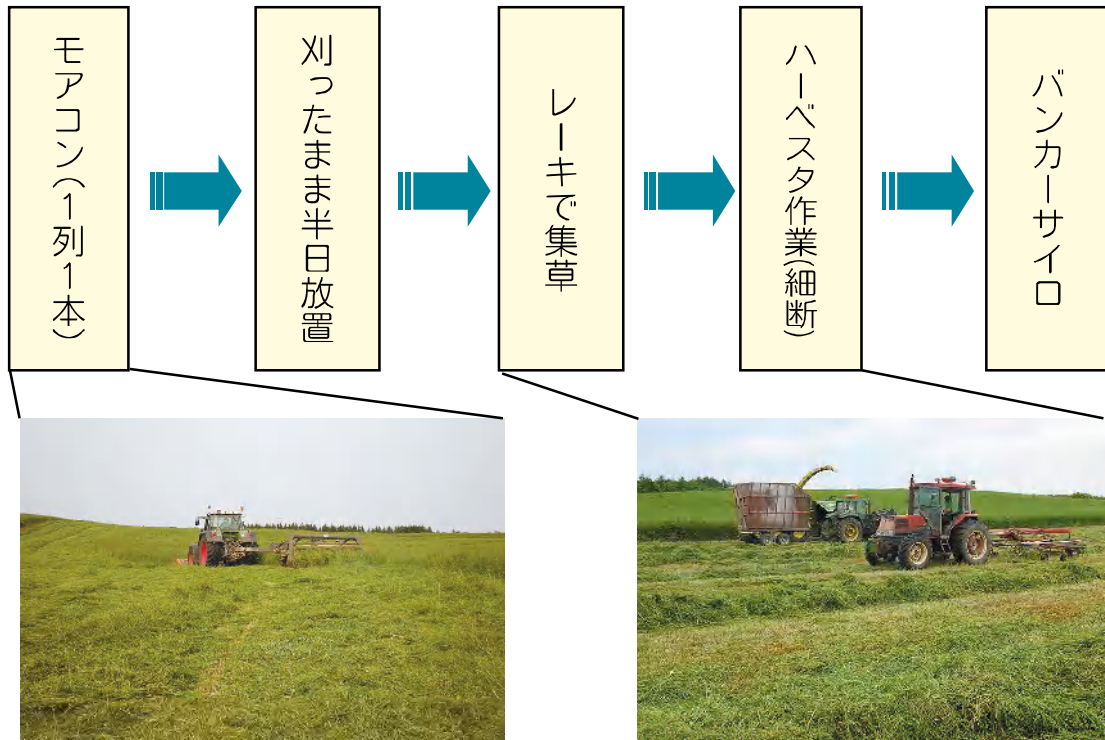


図10 予乾を行うときの作業体系

表3 過去3年間の水分と発酵品質

	H19	H20	H21
水分（％）	70	65	61
アンモニア態窒素/全窒素（％）	4	3	3
酪酸（％）	なし	なし	なし

（普及センター調べ）

#### <今後の対応>

3連モアコンの導入を検討しているが、原料草の予乾重視※のためスワッサーを取り外す予定とのこと。

※スワッサーで3列を1本にするとウィンドローの山が大きくなり乾きにくいと判断したため。ウィンドローの形状と予乾の時間についてはP12参照。

#### 取り組み農家の声

作業がちょっと遅れるが、早く悪いものを作り後で苦労するよりも、少しの手間で良いものを作る方がはるかに良いと考えています。課題は、水分が低くなりすぎた時のカビ対策。天候を見ながら予乾時間を調整する予定です。



### (5) 気象カレンダー～3日間連続で降水量0mmの確率～（別海地点事例）

別海地点の過去27年間の気象データを見ると6月下旬は晴天が3日続かない傾向にありました。今年がこの通りになるとは限りませんが水分調整を行う上での参考にしてください。

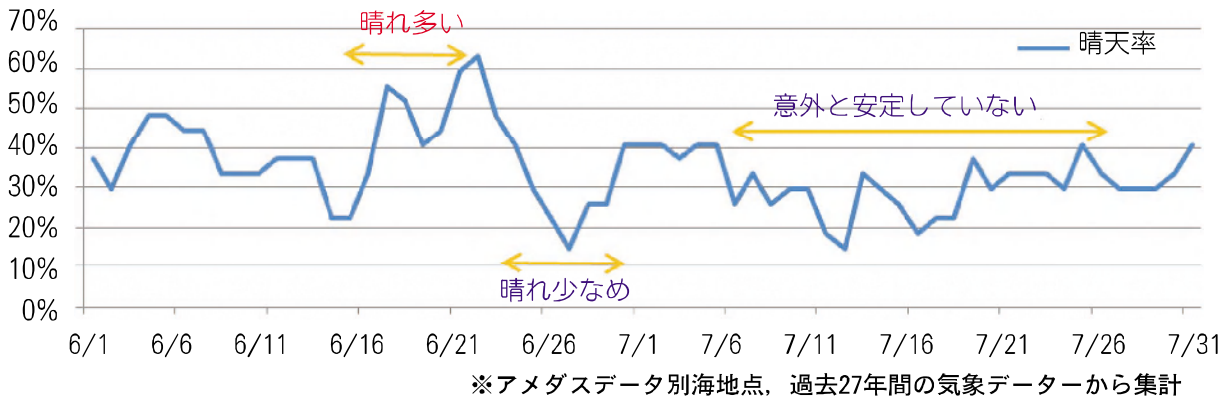


図11 晴天率（その日から3日間連続降水量が0mmの確率）

### 晴天率カレンダー・別海地点

6/1	6/2	6/3	6/4	6/5	6/6	6/7	6/8	6/9	6/10
37%	30%	41%	48%	48%	44%	44%	33%	33%	33%
6/11	6/12	6/13	6/14	6/15	6/16	6/17	6/18	6/19	6/20
37%	37%	37%	22%	22%	33%	56%	52%	41%	44%

6/17～23あたりは晴れが3日続く確率が高い



6/21	6/22	6/23	6/24	6/25	6/26	6/27	6/28	6/29	6/30
59%	63%	48%	41%	30%	22%	15%	26%	26%	41%

6/26～29あたりは晴れが3日続く確率が低い。  
高水分の対策：乾きやすい集草形状、ギ酸等の利用



7/1	7/2	7/3	7/4	7/5	7/6	7/7	7/8	7/9	7/10
41%	41%	37%	41%	41%	26%	33%	26%	30%	30%
7/11	7/12	7/13	7/14	7/15	7/16	7/17	7/18	7/19	7/20
19%	15%	33%	30%	26%	19%	22%	22%	37%	30%

7/11以降、晴れが3日続く確率は低い



7/21	7/22	7/23	7/24	7/25	7/26	7/27	7/28	7/29	7/30
33%	33%	33%	30%	41%	33%	30%	30%	30%	33%